

長崎大学多文化社会学部2年 岩高 史織（いわたか しおり）

長崎県長崎市出身の、岩高史織です。私がこのナガサキ・ユース代表团に入ろうと思った理由は、世界に平和を発信することが長崎に生まれた私の義務であると考えからです。

私は長崎で生まれ育ち、幼いころから長崎に関する平和学習を行ってきました。また、被爆三世ということもあり、一般の方たちよりも”原爆“について身近に感じながら生活していました。

しかし、世界ましてや日本でも“核兵器は必要だ”という意見を耳にします。こういった考えの違う人に対してどうやってより積極的に非核化に向けてアプローチすればいいのかを模索していきたいです。

今すぐに世界から完全に核兵器を無くすということはとても難しいことでしょう。しかし、長期的な視点で核のない世界を実現するための手助けをするために、8期生のみんなと勉強し世界に発信したいです。まだまだ未熟な私ですが、これからの活動を全力で、かつ楽しみながら行いたいと思います。よろしくお願ひします。



長崎大学環境科学部2年 箴島 葵（おさじま あおい）

長崎大学環境科学部2年の箴島葵です。私は福岡県久留米市出身で、中高は佐賀県の学校に通い、大学入学を機に長崎に来ました。1年生の2月からPeace Caravan隊に所属し、小学生に向けた平和講座、海外の学生との平和学習、他の平和活動団体との交流などを行ってきました。

その中で平和な世の中をつくろうと奮闘する多くの方々に出会い、今までは不可能だと感じていた「核なき世界」の実現への可能性を感じるようになりました。核兵器の問題を多くの人に身近な問題として捉えてもらうためには、私たちの「声」で事実や意見を分かりやすく発信していく必要があると思います。そのためにも自身の核問題についての知識を深めることは勿論のこと、多くの人と意見を交わしながら考えを深めたいと思います。

現在、若者が気候変動への対応を求めて声をあげ、世界中から注目を集めています。これらの注目を核問題にも向けてもらうために、専門分野である環境科学を含め、様々なアプローチから核問題について発信していこうと考えています。精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。



長崎大学工学部4年 川村 和輝 (かわむら かずき)

長崎大学工学部4年の川村和輝です。愛知県出身で大学進学を機に2016年から長崎に住んでいます。私は中学生の頃アメリカに住んでいた経験があり、そこで核兵器の保持や使用を正しいと考えている人が多いことを目の当たりにしました。日本で核の恐ろしさを学んでいた自分にとって大変衝撃的でした。これがきっかけで、どうすれば核の危険性を理解してもらえるのか、また自分も核廃絶に向けてなにか活動がしたいと考えるようになりました。



現在、世界には約14,000発の核兵器が存在していると言われていています。これらはコンピュータで制御されているため、たとえ使用する意図がなくても誤作動や人為的なミスで誤爆してしまう危険性があります。そのため核兵器が存在している以上、人類の安全は確保されず、本当の意味での平和は訪れません。私はナガサキ・ユース代表団を通し、このような核兵器の恐ろしさを科学的な視点から伝えていこうと思います。そして多くの人がこの核廃絶の問題に向き合うきっかけとなるような活動を行っていきたいです。

長崎大学多文化社会学部2年 高見 すなお (たかみ すなお)

7期生に引き続き、8期生を務めます長崎大学多文化社会学部2年の高見すなおです。栃木県出身で、東日本大震災による原子力発電の事故時に感じた恐怖をきっかけに、核兵器問題を自分事として捉え、核兵器廃絶を訴えたいと思い、7期生を務めました。



今回8期生に挑戦させていただいた理由は「自分の将来を守ること」「行動の輪を広げること」です。7期生の活動として得た大きな学びの一つに地球上に生きている私たちは皆ヒバクシャになり得るという考えがあります。その考えを元に「人類みなヒバクシャ」という概念を国連で発表し、共感や感動の声を共有することができました。私たちの生活に密接に関わっていて私たちの生活を奪いかねないような物事はあるのだということを自覚し、その意識を自分の中で守りたいです。

さらに、世界中の人々全員が核兵器と共存している現状の当事者であることを恐ろしいと感じ、行動する権利があると思います。8期生として参加するNPT再検討会議は5年に1度の本会議です。世界中各国から来られる同じような志を持った人々との出会いを大切に、行動や意識の輪を広げていきたいです。精一杯頑張りますので、よろしくをお願いします。

長崎県立大学国際社会学部2年 谷口 萌乃香（たにくち ほのか）

皆さんはじめまして。長崎県立大学国際社会学部2年の谷口萌乃香です。

私がナガサキ・ユースの活動を知ったのは、今年の夏に参加した長崎県主催の交流事業でのユースの方のプレゼンテーションでした。その際、核兵器の持つ威力や現代社会を取り巻く核事情について学ぶことができ、平穏な日々を送っている私たちでさえ核の危険に晒されていることを実感しました。

しかし、長崎県諫早市出身で小学生の頃から平和教育を受けてきた私でも、それまで戦争はどこか遠い昔の出来事のように感じていました。そして、私と同じように危機感を持たずに生活している人は、少なくないのではないかと思います。

核兵器や戦争について知ることは、過去の“歴史”を学ぶことではなく、現在の“実情”を理解することで、平和な世界を構築するためには核兵器廃絶がいかに重要であるかを忘れてはいけません。科学技術や国際間の交流が更に発展した時代に生きる私たちだからこそ、ナガサキの地に住んでいるから私たちだからこそ、できることがあります。そして私自身、ユースでの活動を通して知識や経験を増やし、多くの人と関わり、自分を成長させていきたいです。



長崎大学多文化社会学部1年 中村 楓（なかむら かえで）

はじめまして。長崎大学多文化社会学部の中村楓です。私は出身地がもう一つの原爆投下地である広島県に近い岡山県だったこともあり、小学生のころから核兵器について知る機会がありました。幼いころに核兵器の惨状を目にした衝撃は忘れることができません。しかし、二度と使用してはいけないものだとして強く認識していたにも関わらず、何もできていませんでした。大学進学を機に長崎に住み始め、国内外の核兵器に対する意識の低さを知り、何か行動を起こさなければ意味がない！と思い立ちナガサキ・ユース代表団に応募しました。現在、核の所有はもはや日本だけの問題ではなく、世界中の人々と議論を進めていかなければならない問題となっています。また、「ヒバクシャ」も日本国内だけでなく世界中にいます。国内外に核兵器が引き起こす惨状と放射能被害の継続性、何より二度と利用されてはならないものということを伝え、少しでも核廃絶に向けて貢献できればと考えます。よろしくお願ひします。





福岡県出身、多文化社会学部2年の三宅凜と申します。高校時代にフィンランドへ留学し、私たちの日常には感謝すべき小さな幸せが溢れているということ、そして一つ一つの幸せが家族、地域、国へと、徐々に広範囲にわたる幸せに結びつくということを学びました。皆さんは何をしているときに幸せを感じますか？忙しい毎日の中でも、楽しい！幸せ！と心から笑顔になれる時間を持っているのではないのでしょうか。核兵器は、このような私達の“日常の幸せ”を一瞬で破壊します。原子爆弾が投下されたあの日、数多くの幸せや笑顔が無差別に、そして永遠に奪われました。たくさんの夢や、希望、可能性も一瞬で砕けました。多種多様な人生が完全に無視され、壊され、長崎全体が悲しみに包まれた原爆投下日。このような非人道的な1日を、もう二度と私たちは迎えてはいけません。核が人と環境にもたらす影響は、言葉では説明ができない程におぞましいです。“長崎を最後の被爆地に。”という多くの人の強い思いを胸に刻み込みながら、任期全うまで奔走したいと思います。